



大城 節子
議員



民生委員について

質 令和4年11月に改選の民生委員について、村内の委員の定数、いない地域はどうするのか、今後の取組について伺います。

答 福祉課長（石川 司）

一斉改選期前の5月に村長、社協事務局長、私と地域福祉係の職員と各公民館の区長へ推薦依頼のお願いをし、退任が想定される行政区には新任の民生委員を推薦していただくよう要請しました。本来、村の定数は20名、不在の行政区は、恩納区2名、南恩納区2名、仲泊区2名、山田区1名、真栄田区1名、児童委員1名、計9名が欠けています。今後は、不在地域の区長と情報を共有し人選を進めていきたいと思えます。

提 地域の中から委員を探すのは容易な事ではないと思えます。委員は、時間や経済的にもある程度余裕があり、委員の仕事に理解が必要だと思うからです。例えば役場のOBの方が適任だと思えますが、今後役場職員や公人の皆さんは、退職後は自から進んで地域に貢献する人材になって欲しいと願っています。

一時避難場所について

質 仲泊の避難場所は、村道より40メートル入った道沿いにあり小学生が避難するには車の往来で危険が伴います。津波がきたらいち早く高台へと思うと、学校向かいの通称学校山グラーを利用して子供達の避難道路を作ってもらえないのか、当局の考えを伺います。

答 総務課長（山城 雅人）

災害が発生、津波警報等が発令されたら高い場所へ速やかに避難する必要から、通称学校山グラーは、児童及び地域の皆様の津波警報発令時の高台避難路として考えています。同用地等は、村有地、民有地を含む地籍、県の保安林指定等があり、許可等の事務確認を行いながら避難経路の事業を推進していければと考えています。

提 学校の近くに避難路ができる親御さん達も安心するだろうと思えます。早急に課題に取り組み、避難道が実現する様願っています。

校門にある学校銘板について

質 校門の学校銘板は、併置校のまま残しておくのか、当局の考えを伺います。

答 学校教育課長（仲村 泰弘）

うんな中学校が開校し各中学校の銘板は役目を終えています。恩納小学校は銘板の横に記念プレートを設置、安富祖小学校は銘板を移動して設置、喜瀬武原、仲泊、山田の3校はそのままの状態が残っているので、日付等を入れた記念プレートを銘板の横に設置したいと考えています。



生理の貧困について

質 生理の貧困について、どのような対応検討をされているか伺います。

答 学校教育課長（仲村 泰弘）

小中学校におけるトイレへの生理用品常設についてアンケート調査を行い、その結果、トイレへの常設を4校で実施しています。

提 小中の対応については分りました。女性の立場から地域の公共施設や観光施設の女子トイレに生理用品を置いてほしい。そうする事で、恩納村の好感度も上がると思うので御検討いただけたら幸いです。



児童・生徒の健康（虫歯）について

質 虫歯を放置することで、脳の動きや集中力が低下などをもたらすと聞かれています。現在の取組状況を伺います。

答 学校教育課長（仲村 泰弘）

村内の小学校4校、中学校におきましては、本年度、4月から6月にかけて、歯科検診実施。小学校で虫歯のある児童は201名。中学校で108名となっております。虫歯に関する学校の取組として、食後の歯磨きやうがい等の指導、歯科検診後の治療状況の把握、未受診者の受診勧告、虫歯の予防対策に努め、治療が必要な児童生徒につきまして、本年4月から中学校卒業まで医療機関での支払い不要の現物給付で助成が受けられ、未受診者への受診の呼びかけを学校と連携し行っていくと考えています。

伊武部ローソン前、国道58号横断歩道への街灯設置について

質 夜間、横断者が見えづらく大変危険なため、街灯設置が必要だと考えますが、当局の考えを伺います。



伊武部ローソン前横断歩道

子供の貧困対策について

質 令和4年度の村の取組状況については、子供の貧困対策支援員の配置は、

答 福祉課長（石川 司）

子供の貧困対策支援員については、地域に向いて子供の貧困状況を把握し、学校や関連機関と情報を共有して支援につなげていく役割を担っています。実際に支援が必要な子供に寄り添って支援を行うなど、重要な役割を果たす仕事であります。村では子供の貧困対策支援員として、小学校、中学校へスクールソーシャルワーカーを、平成29年度から継続的に配置されています。



新城 哲
議員



質 子供の居場所支援、拠点型子供の居場所の整備、若年妊産婦の居場所の整備は、村においても実情を踏まえながら、関係機関と分野横断的に調査、協議、調整を行いたいと思えます。

答 福祉課長（石川 司）

子供の居場所支援、拠点型子供の居場所の整備、若年妊産婦の居場所の整備は、村においても実情を踏まえながら、関係機関と分野横断的に調査、協議、調整を行いたいと思えます。

質 今後、貧困対策をどのように推奨していくか村長のお考えを伺いたい。

答 村長（長浜 善巳）

沖縄県の貧困率29.9%と、全国約2倍で、3人に1人が貧困の状況にあると調査結果が出ました。この調査結果は、新型コロナウイルス感染症が拡大する前の調査結果であります。その当時と現在の社会情勢を見ると、貧困世帯への経済的負担は、計り知れない状況にあると認識しています。経済支援を始め、担当課の強化を図り、子供の貧困対策、ヤングケアラー問題など、家庭内における複合的課題を分野横断的に支援してまいります。

答 建設課長（屋良 朝也）

名嘉真区・安富祖区に関しては、バスがないという事もありまして、交通量も多く、そしてまた夜間が、街灯がないということは大変危険な箇所も多いと思えます。国道58号は、北部国道事務所が管理となっておりますが、村としては、地元からの聞き取りもやって、現場調査なども行って、北部国道事務所への街灯設置の要請を行なっていくと考えています。